

◎第3回理事会 (39.8.28) 出席者：山内、大石両副会長、伊藤、板倉、江口、岡崎、春日屋、粕谷、近藤、篠原、嶋、鏡、樋浦、前沢、松尾、村上、八木の各理事、羽田専務理事、小林、武内両監事。議事録署名理事 伊藤理事、羽田専務理事。A. 報告事項：つぎの各項について羽田専務理事から説明があり了承された；1) 会計報告。2) 刊行物頒布報告。3) その他。B. 協議事項：1) 真田秀吉、青山 士、谷口三郎3氏 記念基金寄附について：羽田専務理事より元会長である3氏の業績を記念するため建設省出身者よりなる旧交会が広く募金して70万円を土木学会へ寄附された旨説明承認。2) 「第2回理工学における同位元素研究発表会」の共同主催について：羽田専務理事より説明があり幹事学会として共催することにした。運営委員は近藤紀氏(建設省土木研究所赤羽分所)。3) 「東海道新幹線と土木技術」講演会開催について：羽田専務理事より説明があり今後大工事についてこのような催しを行なうこととして承認。4) その他：支部幹事長会議の告；① 総会開催地について：幹事長会議で討議の結果、昭和36年の幹事長会議で決った順序で1回転したのち、新たに新方式について検討する。ただし、関東、関西支部は他支部より余分に開催するようにするという結論に至った旨を羽田専務理事より説明。理事会は1965年西部支部、1966年北海道支部で開催することを決定。② 理事、監事候補者推薦制について：臨時評議員会を開催して評議員会で決定してもらう。もし、案を求められた時は専務理事の案を提出することにする。5) 追加議題：「第3回原子力総合シンポジウム」の共催について・前回同様共催し、幹事学会となってもよいが負担金は前回と同額とする。運営委員は原子力土木技術委員会に一任することに決定。6) ①夏期講習会の件につき報告。② 元会長、名誉会員田中 豊殿逝去について報告。③ 図書館建設の出来高につき内金を支払の件。

7) つぎのとおり委員の委嘱を行なった。

①河北潟干拓河口工事研究委員会  
大形賢師氏転勤のため

後任幹事 佐代田 治己氏 農林省北陸農政局  
(交代)

②耐震構造設計研究委員会

幹事 阿部 英彦氏 国鉄構造物設計事務所(新任)

③耐震工学委員会

根来幸次郎氏退職のため  
後任委員 立花 文勝氏 国鉄副技師長  
(交代)

④土木振動学便覧編集小委員会

林 聡氏退任のため  
後任委員 堤 一氏 電力中央研究所技術研究所(交代)

⑤大学土木教育委員会

委員兼幹事 丹羽義次氏 京都大学工学部(今まで幹事)  
増岡康治氏 建設省大臣官房技術調査官(今まで幹事)  
高野宗司氏 国鉄施設局管理課(新任)

⑥文献調査委員会

宮川房夫氏退任のため  
後任委員 青木正彦氏 鉄道技術研究所(交代)

⑦新潟震災調査委員会

幹事 伊藤 学氏 東京大学工学部(新任)  
田村浩一氏 国鉄構造物設計事務所(新任)

寺島 敏氏 建設省土木研究所(新任)

青木浩一氏 科学技術庁総合研究課(新任)

堀口孝男氏 運輸省港湾局防災課(新任)

◎各種委員会

(1) 大学土木教育委員会第14回幹事会 (39.7.25) 出席者：米屋委員長、嶋幹事長、ほか8名。議事：1) 今年度事業の具体化について。2) シンポジウムに関する打ち合わせ：11月に新設図書館にて開催する。3) 各調査はシンポジウムに間に合うようにまとめる。4) その他。

(2) 水理委員会 (39.7.26) 出席者：石原委員長、ほか16名。議事：1) 水工学夏期研修会について。2) 第9回水理講演会について。3) 水文小委員会について。4) その他

(3) 土木図書館運営委員会 分類整理方式審議分科会 (39.7.27) 出席者：米元委員長、久野主査、ほか4名。議事：土木図書館図書分類方式について。

(4) 土木賞委員会 (39.7.30) 出席者：関係者15名。議事：1) 委員長、副委員長、学術賞主査、技術賞主査の選出。2) 幹事の指名。3) 前年度委員会の申し送り事項。4) 土木賞授与規定改正案について。5) 土木賞運営ならびに土木賞候補の募集に関する内規改正案について。6) 土木賞候補募集について。7) 39年度土木賞委員会日程について。

(5) 会誌編集本委員会 (39.7.31) 出席者：八十島委員長、樋口副委員長、ほか16名。議事：1) 原稿投稿、審査、依頼報告。2) 小委員会報告。3) 特集号議案について。4) 会誌モニターについて。5) その他

(6) 出版企画委員会 (39.8.4) 出席者：森委員長、春日屋副委員長、嶋幹

事長、ほか11名。議事：1) 前回幹事会報告。2) 出版企画委員会内規改正について。3) 各委員会関係連絡委員の確認と相互連絡について。4) 出版企画委員会の本年度活動方針および委員会の運営について、① 出版賞の制定について：④ 土木賞の中に業績賞を設け出版もこの中に含む、⑤ 土木賞とは別個に出版賞を設ける、などの意見があった、② 他の出版社とのタイアップについて。5) 新規出版物について：① 大鳥セミアーチダム工事報告、② 爆破(学会誌連載講座を再出版)について、③ 川俣ダム工事報告書について、④ 新潟地震調査報告書について、⑤ 土木工学学術文献カードの印刷頒布について、⑥ その他新規出版物案の処理について、⑦ 刊行物の販売について。6) 学会出版物の体裁について。7) 水理委員会夏期研修会テキスト販売について。8) 次回幹事会および委員会について。

(7) 文献調査委員会 (39.8.5) 出席者：高橋委員長、ほか12名。議事：1) 49巻10号登載抄録について。2) 解説記事について。3) 委員の交代について。4) 担当雑誌について。5) 出版企画委員会からの要望について。

(8) 論文編集委員会各分会 (39.8.5) 出席者：粟津、池守両部会長、ほか26名。議事：1) 各分会ごとに審査中原稿の報告。2) 新規受付原稿審査委員の決定。3) 討議原稿の取り上げ方について。4) その他。

(9) 会誌編集小委員会 (39.8.7) 出席者：樋口副委員長、ほか4名。議事：1) 49巻10号編集について。2) 依頼原稿について。3) 次期講座について。4) その他。

(10) 50周年記念事業行事委員会 (39.8.7) 出席者：田中委員長、岡本、加藤、中島の副委員長、ほか9名。議事：50周年記念行事計画について。

(11) 会誌編集委員会 記念特集号編集打合せ会 (39.8.11) 出席者：八十島委員長、ほか5名。議事：1) 50巻第1号の編集方針について。2) 執筆依頼先の決定。3) その他。

(12) 土木図書館運営委員会幹事会 (39.8.11) 出席者：米元委員長、千秋幹事長、ほか5名。議事：1) 国際会議論文集の整備計画案について。2) 洋書(単行本)購入案について。

(13) 「建設/創造/技術」編集本委員会 (39.8.13) 出席者：片山委員長、中川、竹原の両主査委員、ほか13名。議事：1) 改正された編集方針の説明およびその認知。2) 各主論文の審査およびその

補正, 補充法の検討。3) その他。

(14) 論文編集委員会部会長会 (39.8.13) 出席者: 奥村委員長, ほか6名。議事: 1) 各部会報告。2) 論文集第110号 (39年10月発行) 掲載論文の決定。3) 論文集第111号 (39年11月発行) 掲載論文の決定。4) 新規受付原稿の審査委員の決定。5) 討議のあり方について。

(15) 会誌 1964年の回顧と展望 第1回打合せ会 (39.8.14) 出席者: 樋口副委員長, ほか5名。議事: 1) 1964年の回顧と展望の編集方針確認。2) 執筆分担の決定。3) その他。

(16) 土木図書館運営委員会 分類整理方式審議分科会 (39.8.19) 出席者: 米元委員長, 久野主査, ほか4名。議事: 土木図書館備付図書 の分類方式を審議決定。

(17) 土木賞主査幹事会 (39.8.20) 出席者: 八十島, 伊藤両主査, 日野幹事, 羽田専務理事。議事: 1) 幹事選任について。2) 土木賞授与規定, 土木賞運営ならびに土木賞候補募集に関する内規, 土木賞候補募集の改正案について。3) 39年度土木賞委員会日程案について。

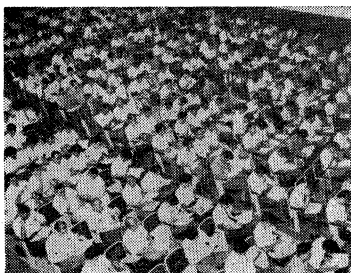
(18) 海外連絡委員会 (39.8.20) 出席者: 徳善委員長, ほか11名。議事: 1) 英文年報について。2) 昭和39年度事業計画について。3) 海外連絡委員会内規の成文について。4) 外国人名誉会員推挙内規について。5) その他。

(19) 大学土木教育委員会 第15回幹事会 (39.8.25) 出席者: 米屋委員長, 嶋幹事長, ほか7名。議事: 1) シンポジウムについて。2) 調査計画の進捗状況について。3) その他。

### ◎その他

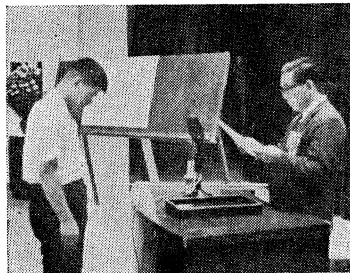
昭和39年度夏期講習会 (39.8.27~28) 会場: 豊島公会堂  
本年の講習会はトンネル標準示方書制定にともない、「トンネル標準示方書の制定と最近のトンネル工学」と題して2日間にわたり講習を行なった。本講習会にはつぎの教材が使用され参加者は約1000名にのぼり非常に盛会であった。

### 会場風景



- ① トンネル標準示方書
- ② トンネル標準示方書解説
- ③ 最近のトンネル工学

### 終了式



## 支部だより

### ◎北海道支部

#### (1) 新進技術者の帰朝報告講演会

(39.8.5)

主催: 北海道支部・土質工学会道支部  
会場: 札幌商工会議所2階大ホール  
聴講: 約100名盛会であった。

演題ならびに講師

- ① スイスにおけるPC橋梁について(スライド上映)  
北海道ビー・エス・上田滋美  
コンクリート KK
- ② 欧米を旅して(スライド上映)  
北海道土木部河川課 小野 中

#### (2) 第2回商議員会 (39.8.12) 於札幌市民会館

出席者: 酒井支部長, 北郷幹事長, ほか16名。

議事: 1) 総会開催地の順序について。2) 理事監事候補者推せんについて。3) その他。

#### (3) コンクリート講習会 (39.8.17~19の3日間) 於北大クラーク会館

講習科目および講師

- 第1日
- ① セメントの最近の諸問題 田中太郎
  - ② 最近のコンクリート工学特にRC, PC, PRCについて 北大 横道英雄
  - ③ 最近のコンクリート用骨材 開発局土木試験所 林 正道
  - ④ コンクリートの配合 室工大 尾崎 認
  - ⑤ コンクリートの施工 日本セメント 山田順治

第2日

- ① 高張力異形鉄筋の諸問題 北大 藤田嘉夫
- ② 舗装用コンクリート 建設省土木研究所 伊東茂富
- ③ ソイルセメント工法とその問題点 開発局土木試験所 小山道義
- ④ 金山ダムのコンクリートについて 開発局金山ダム建設所 山岡 勲
- ⑤ レザーミクスト コンクリートとその使用上

の問題点 札幌生コンクリート 宮下寿雄  
⑨ コンクリート製品

小野田セメント 杉木六郎

第3日

1) 見学 (函館本線南橋小樽間高架化工事)

2) 学習 開発局土木試験所 コンクリート研究室

3) 映画

以上3日間, 日本セメント技術協会と共催し, 参加受講者869名の多数を得て盛会裡に終始した。

#### 4) 第4回幹事会 (39.8.31) 於不二家

出席者: 北郷幹事長, ほか8名。  
議事: 1) 学生映画会。2) 第2回見学会。3) 第3回講演会。4) 技術資料発刊。5) 50周年記念巡回映画。6) 支部規定一部改正。7) 第3回講演会。8) 第4回講演会などについて協議した。

#### 5) 学生映画会 (39.9.10) 於北大クラーク会館

1) 開会挨拶

土質工学会道支部長 高瀬 正氏

2) 共催土質工学会道支部

3) 映画

① 高速道路をつくる ② 私は高速道路 ③ 国鉄東海道新幹線1部2部 ④ 橋  
4) 参加者600名(北大生, 市内高校生ほか)

### ◎関西支部

#### (1) 水工学に関する夏期研修会 (39.7.25~8.1, 京都大学)

共催: 土木学会水理委員会・土木学会関西支部

Aコース (7.20~7.25) 講義4題, 特別講演4題, 京都大学防災研究所見学

Bコース (7.27~8.1) 講義4題, 特別講演4題, 大阪大学, 大阪市立大学見学  
参加者114名, Aコース72名, Bコース42名, 参加費5000円

#### (2) 第3回見学会 (新幹線試乗会)

第1次: 8月9日, 第2次: 8月10日  
新幹線 新大阪駅-米原間 往復試乗した。

参加者391名, 第1次197名, 第2次194名, 参加費300円

#### (3) 破壊の機構についての講習会

(39.8.6~8, 大阪科学技術センター)

共催: 日本材料学会関西支部, 土木学会関西支部, 他8学協会

講義11題, 討論会

参加者175名

#### (4) 学会誌 関西支部 特集号 (第49巻第6号) 懇談会 (39.8.5, 土木学会関西支部事務局)

出席者: 関係者6名。

(5) 第4回幹事会(39.8.18, 土木学会関西支部事務局)

出席者: 松尾幹事長, ほか 11 名。

◎中国四国支部

(1) 第5回幹事会(39.7.27)

開催場所: 水野組広島事業本部会議室  
出席者: 内田幹事長, ほか 6 名。

議題: 1) 第 16 回支部学術講演会に関する件。2) 創立 50 周年記念巡回映画会に関する件。3) 国鉄新幹線試乗に関する件。4) その他

(2) 第6回幹事会(39.8.11)

開催場所: 水野組広島事業本部会議室  
出席者: 内田幹事長, ほか 7 名。

議題: 1) 50 周年記念事業関係に関する件。2) 総会開催地の順序についての件。3) 理事, 監事候補者推薦方法に関する件。4) 支部講習会に関する件。5) その他。

◎西部支部

(1) 役員会(39.8.4)

出席者: 宇野支部長, ほか商議員・幹事 35 名。

議題: 昭和 40 年開催の第 51 回通常総会および第 20 回年次学術講演会(以後この両会をあわせて土木学会大会と略称)を当支部担当につき商議員 伊藤道夫

氏(九州地方建設局長)を大会実行委員長に委嘱し, 各行事の担当機関と委員機関を決定した。

(2) 夏季講演会(39.8.20)

場 所: 熊本県阿蘇郡長陽村 南阿蘇国民宿舎

① 開会の挨拶 西部支部長 宇野 周三

② 熊本県の土木事業について 熊本県土木部長 大村繁三郎

③ 河川の内水排除計画について 九州地建後川工事事務所 調査課長 橋本 敏春

④ 土質力学とシロロジ— 宮崎大学工学部助教授 藤本 広

⑤ 長崎干拓の事業概要 九州農政局建設部設計課設計官 重石 年雄

— 中 食 —

⑥ とり面の計算手法 建設専門官 吉田 信夫

⑦ 九州における国鉄の輸送量想定方法について 一特に旅客輸送について— 国鉄下関工務局 技師 西村 常明

⑧ 越流堰の流量について 九州大学工学部助教授 上田年比古

⑨ 天草橋の基礎工事 日本道路公団 天草架橋工事事務所長 栗原 利栄

⑩ 地熱発電におけるボーリングについて 九州電力土木部計画課 奥田 紫明

⑪ ななめ格子桁橋の静力学的性質について —主として傾度と曲げモーメントについて—

熊本大学工学部教授 吉村 虎蔵  
⑫ ノンスキッド工法(シリカサンドアスファルト)について

日本道路公団 福岡支社

設計課長 浦川 一郎

参加者: 110 名, なお, 会場の収容力の関係上締切後の申込約 60 名の参加ができなかったことは残念であった。

(3) 見学会(39.8.21)

場 所: 九州横断道路

日本道路公団有料道路中営業区間 28

キロ(一ノ宮長者原間)未営業区間 24

キロ(長者原由布院間)

参加者: 110 名

未営業区間は特に山なみハイウエーの名にふさわしい勝景であった。

(4) 大会担当機関打合せ(39.9.1)

出席者: 長谷川幹事長, ほか 18 名

議題: 大会準備具体化のため各行事担当機関から当事者が出席して打ち合わせをした。

(5) 第3回幹事会(39.9.10)

出席者: 長谷川幹事長, ほか 9 名

議題: 幹事長会議報告, 会誌編集委員会状況説明, 今後の支部行事予定, その他。なお, 大会準備の小委員会を各行事別に開催することになった。

編集後記

鉄道史を飾るといい日本産業界に残るとい

う。だが日本のメガロポリスをばく進する東海道新幹線にはなむける言葉としてはまだ足りない感がないでもない。これは「無為にして化して」いたのでは決してできなかった先覚者と建設者の血と汗の結晶であり, 無責任と低姿勢の 1960 年代を飾る国民精神の金字塔であったといわなければならない。

このように世界のトップを行く一大総合的工業成果を主として自力で

つくったことが開国以来いくつあったであろうか? 日本は文句のない世界鉄道界のメッカとなったし国外へ進出する鉄道技術界は根幹的な面で本家としての他の先進国の出現に気がねすることなく胸をはって行ける。これは先進国への道をたどるべき重大な転機にたっているわが国にとって形容しがたいほど大きい意義を持つものではないだろうか?

本号の車中座談会に出ておられる仁杉さんと長浜さんを残し建設に功労のあった土木屋はつぎつぎに舞台

から消えていった。秋風とともに一まつの寂しさを覚えるがこれは国づくりの根幹をになう土木屋の宿命であろう。土木屋機関誌の新幹線特集号としては工事に関係した土木屋全部の名前を收容したらという案も出たが紙数の関係で実現できなかったことをおわびしなければならない。

町田, 渋谷両編集委員の努力によりできるだけ新幹線関連記事のウエイトを高めて編集してみたが読者諸兄のご関心を頂ければ幸いである。

【樋口・記】

昭和 39 年度土木学会誌編集委員

委員長	八十島 義之助		副委員長	樋口 芳朗		*印は幹事兼務	
委員	天野 礼二 菊川 哲士 土屋 昭 湯 浅 昭	浅谷 陽 治 齋 木 三 郎* 寺 尾 英 二	茨 木 竜 雄 渋谷 祥 夫* 原 田 信 昭	上 田 勝 基 城 野 忠 雄 豊 島 修	遠 藤 篤 康 高 橋 裕 南 部 繁 春	大久保 喜市 立 石 俊 一 中 村 正 平	小 坂 忠 玉 木 勉 町 田 富 士 夫
地方委員	(北海道支部) 菅 原 照 雄 河 野 文 弘	(東北支部) 三 浦 晃 阿 部 泰 夫	(関東支部) 渡 辺 健	(中部支部) 酒 井 清 太 郎 増 田 重 臣	(関西支部) 赤 尾 親 助 畑 中 元 弘	(中四支部) 門 田 博 知 玉 井 敏 一	(西部支部) 小 坪 清 真 長 友 文 昭

会 員 入 退 会 に つ い て ( 昭 和 39.8.1~8.31 )

入 会	160 名 ( 正 143 学 13 特 1.B 1 特 1.C 1 特 1.D 2 )
復 活	3 名 ( 正 )
退 会	12 名 ( 正 7 学 3 特 1.D 2 )
死 亡	6 名 ( 名 誉 1 正 5 )
転 格	8 名 学 → 正 5 正 → 学 2 特 1.B → 特 1.C 1

特 別 員 入 退 会

○入会	昭和 39.8.13	特 1.B	水資源開発公団 東京都港区赤坂一ツ木町 36
"	"	特 1.C	日本鋼管KK清水造船所鉄構部 清水市三保 387-1
"	"	特 1.D	東洋さく岩機販売KK 東京都中央区日本橋江戸橋 3-6
"	" 31	"	北海道開発局建設機械工作所 札幌市月寒東 2 条 8 丁目
○退会	昭和 39.8.6	特 1.D	セメタイト工業KK 東京都新宿区四谷 2-11
"	39.8.18	"	日本曹達KK二本木工場コンクリート試験室 新潟県頸城郡中郷村藤沢 950

会 員 現 在 数

名 誉	正 会 員	学 生 会 員	賛 助	特 級	特 1.A	特 1.B	特 1.C	特 1.D	特 2	合 計	( 増 )
57	15818	2270	30	17	16	47	232	351	39	18877	(145)

名 誉 会 員	田 中 豊 君	東 京 大 学 名 誉 教 授 日 本 学 士 院 会 員	昭 和 39.8.27	死 去	76 才
正 会 員	西 島 尚 義 君	鉄 建 建 設 KK 常 務 取 締 役	" " 8.31	"	59 才
"	池 田 繁 君	群 馬 県 企 業 局 片 品 川 建 設 事 務 所 長	" " 6.27	"	66 才
"	瀬 野 錦 蔵 君	京 都 大 学 教 授	" " 8.11	"	59 才
"	高 橋 真 一 君	大 分 県 電 気 局 建 設 課	" " 7.18	"	41 才
"	山 谷 卓 朗 君	三 井 不 動 産 KK	" " 7.1	"	23 才

支 部 所 在 地

北 海 道 支 部	札 幌 市 平 岸 北 海 道 開 発 局 土 木 試 験 所 内 ( 電 札 幌 83-4161 )
東 北 支 部	仙 台 市 北 三 番 丁 124 建 設 省 東 北 地 方 建 設 局 企 画 室 内 ( 電 仙 台 22-4191 )
關 東 支 部	東 京 都 新 宿 区 四 谷 1 丁 目 土 木 学 会 事 業 課 内 ( 電 東 京 351-5138 )
中 部 支 部	名 古 屋 市 中 区 南 外 堀 町 6 の 1 名 古 屋 市 土 木 局 道 路 建 設 課 内 ( 電 名 古 屋 94-5511 )
關 西 支 部	大 阪 市 天 王 寺 区 堀 越 町 110 天 王 寺 ス タ ー シ ョ ン ビ ル 4 階 ( 電 大 阪 716-7881 内 33 )
中 国 四 国 支 部	広 島 市 八 丁 堀 122 KK 水 野 組 内 ( 電 広 島 21-5131 )
西 部 支 部	福 岡 市 渡 辺 通 り 2 丁 目 九 州 電 力 KK 土 木 部 内 ( 電 福 岡 76-3031 )

昭 和 39 年 10 月 10 日 印 刷

昭 和 39 年 10 月 15 日 発 行

土 木 学 会 誌 第 49 卷 第 10 号

印 刷 者 大 沼 正 吉

印 刷 所 株 式 会 社 技 報 堂

東 京 都 港 区 赤 坂 溜 池 5 番 地

口 絵 製 版 印 刷 者 若 林 孟 夫

印 刷 所 若 林 原 色 写 真 工 芸 社

東 京 都 港 区 芝 金 杉 川 口 町 20 番 地

発 行 者 羽 田 巖

発 行 所 社 団 法 人 土 木 学 会

東 京 都 新 宿 区 四 谷 一 丁 目

定 価 200 円 ( 送 料 20 円 )

振 替 東 京 16828 番

電 話 ( 351 ) 5130 ・ 5138 ・ 5139 番